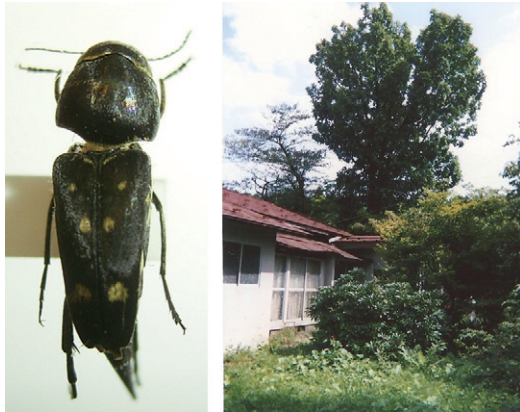


て生存していたのかもしれない。

末筆ながら、貴重な標本を提供して下さった父・芳賀純に深く感謝する。同定の労を賜った高桑正敏博士（神奈川県立生命の星・地球博物館）には厚くお礼申し上げるとともに、同定結果を長期間発表せずに放置してしまったことを深くおわび申し上げる。



図(左)：秋田県湯沢市産のウスキボシハナノミ；(右)：ウスキボシハナノミが採集された住宅（2006年撮影，建物は現在は撤去）。

引用文献

- 高桑正敏, 2006. 日本産ハナノミ科ハナノミ族概説. 9. 甲虫ニュース, (154), 1-7.
高桑正敏, 2008. ハナノミ研究への誘い. 高桑正敏の解体虫書, 46-57. 華飲み会, 小田原.

(埼玉県さいたま市 芳賀 馨)

【短報】埼玉県から初記録となるアカツヤドロムシ

アカツヤドロムシ *Zaitzevia rufa* Nomura et Baba, 1961 は、新潟県から得られた2個体をもとに記載された種である (Nomura & Baba 1961). 日本産 *Zaitzevia* 属の中において、本種は体長が大きく、体色が赤褐色、鞘翅の先端部が丸まる、複眼が小さいなどの目立った特徴を持つことで知られる。これまでに本種は、山形、新潟、茨城、栃木、群馬から記録されているが (吉富ほか 2002; 上手 2010; 大川 2010)、基本的に採集数が少なく、生息地も限られる傾向が強く、絶滅危惧Ⅱ類 (VU) にも選定されている (環境省 2007)。

埼玉県においては、主に荒川水系においてヒメドロムシ類を調査した新井 (2007) の詳細な報告が発表されているが、本種がこれまでに県内から得られたことはなかった。

筆者らは本種を埼玉県内から得たため、記録を公表するとともに生息環境と水質等のデータも

報告したい。なお、水温と pH の測定には、佐藤商事製の PORTABLE PH METER PH-009 (III) ATC と Hanna instruments Ltd. 製の緩衝液 pH 6.86 buffer solution を用いた。また、河川形態の同定には、水野・御勢 (1993) を用いた。

記録

Zaitzevia rufa Nomura et Baba, 1961 アカツヤドロムシ (図1)

1頭、埼玉県秩父市大宮押堀川 (図2), 15-V-2009, 岩田朋文採集, 15.5°C (水温), 8.75 (pH), 8.4cm (水深), 382cm (川幅), 0.68m/sec. (流速); 1頭, 同所, 14-VIII-2010, 岩田朋文採集, 20.6°C (水温), 8.03 (pH), 13.3cm (水深), 373cm (川幅) 0.49m/sec. (流速). 共に、岩田泰幸保管。

形態

本種では長翅型の個体は確認されておらず、全ての個体で短翅となることが知られている (緒方・中島 2004). 今回得られた両個体の後翅を検した結果、やはり後翅が短縮していることを確認できた。本種は、ほとんど移動力を持たないだろう。

生息環境等

本種が得られたのは、荒川に注ぐ小河川 (押堀川) の最上流部であり、川岸付近まで森林が広がる。河川形態は Aa (II) 型にもっとも近く、川幅は 3~4m、水深は最深部でも 20cm 程度で、階段状の早瀬はあるが水量は少なく、傾斜も比較的なだらかであるため、急流とはならない。今回記録した産地は、吉富ほか (2002) において本種の生息環境の一つとされている、河川上流の閉鎖的な溪流環境に酷似している。

同地では、2007年から2010年までの4年間にわたって継続調査を実施していたが、この期間中に水温は 5.1°C から 25.5°C の間で推移しており、夏季でも 30°C を超えることはなかった。吉富ほか (2002) の中では、本種を水温 28°C に入れたところ 1 時間半で死亡したことが明記されており、高水温に弱いことが示唆されている。おそらく、水温が 20°C 後半に差し掛かると、本種の生存には不適な環境となる可能性が高い。

また本種は、他のヒメドロムシ類と同時に採集されることが少ないといわれるが (吉富ほか 2002)、今回記録した産地では、ゴトウミゾドロムシ *Ordobrevia gotoi* Nomura, 1959, アカモンミゾドロムシ *Ordobrevia maculata* (Nomura, 1957), ツヤヒメドロムシ *Optioservus nitidus* Nomura, 1958, ホソ

ヒメツヤドロムシ *Zaitzeviaria gotoi* (Nomura, 1959), ミゾツヤドロムシ *Zaitzevia revalis* Nomura, 1963 などの、河川上流域に生息する種が多く得られている。

継続した調査にもかかわらず、この産地で得られた個体数が極めて少ないため、個体密度が低いのか、付近にある生息本拠地から流下した個体が採集された可能性も考えられる。

謝辞

報文執筆に際して、原稿をご校閲頂くとともに様々なご助言を賜った吉富博之博士（愛媛大学農学部昆虫学研究室）に深く御礼申し上げる。また、ヒメドロムシの採集方法や埼玉県内の同科に関して貴重なご助言を頂いた新井浩二・志保両氏（埼玉県嵐山町）、本調査に関して多大な理解と支援を頂いているニューロンサニター株式会社の皆様（新潟県長岡市）にも併せて御礼申し上げたい。



引用文献

- 新井浩二, 2007. 埼玉県のヒメドロムシ類. 寄せ蛾記, (125), 1-21.
- 上手雄貴・疋田直之, 2010. 群馬県におけるアカツヤドロムシの記録. 甲虫ニュース, (169), 6.
- 環境省, 2007. 昆虫類のレッドリスト新旧対照表. (2010年11月3日参照) (http://www.env.go.jp/press/file_view.php?serial=9956&hou_id=8648).
- 水野信彦・御勢久右衛門, 1993. 河川の生態学. 247 pp. 築地書館, 東京.
- Nomura, S. & K. Baba, 1961. Two new Elmidae species of Niigata Prefecture, Japan (Coleoptera). *Akitsu*, 10(1/2), 4-6.
- 緒方 健・中島 淳, 2004. ヒメドロムシ科に見られる短翅型とその生息環境. 日本陸水学会講演要旨集第69回大会新潟大会 (2011年1月11日参照). (http://www.jstage.jst.go.jp/article/jslim/69/0/157/_pdf-char/ja/).
- 大川秀雄, 2010. 足利市と佐野市のヒメドロムシ. *インセクト*, 61(2), 109-112.
- 吉富博之・疋田直之・佐藤正孝, 2002. アカツヤドロムシの分布とその生息環境 レッドデータ水生甲虫類の分布記録2. 甲虫ニュース, (140), 9-11.

(〒940-1104 長岡市撰田屋町2633-3ニューロンサニター(株) 営業部広報兼任 岩田泰幸 laccotrephes_1874@yahoo.co.jp)
(〒369-0033 秩父市野坂町1-9-29 岩田朋文)

【短報】関東地方におけるマルモンオオキバハネカクシの採集例

マルモンオオキバハネカクシ *Pseudoxyporus gnatho* は, D. シャープによって1889年に *Oxyporus* 属のもとに記載され, その後 Nakane and Sawada (1956) によって創設された *Pseudoxyporus* 属に移されたハネカクシである。

原記載地は Nikko で, Nakane and Sawada が福島県南会津, 愛媛県面河から, 今坂・伊藤 (2007) が大分県黒岳から記録したため, 本州, 四国, 九州から分布が知られている。山地の自然林で確認されているが, いずれの地域でも非常に珍しく, 大型の美麗種で顕著であるにもかかわらず記録は少ない。西日本では奈良県 (伊藤 2007), 和歌山県 (日本甲虫学会 2007), 徳島県 (吉田ほか 2008) など, 東日本からは, 上述の栃木県, 福島県のほか, 群馬県 (渡辺 2006), 山梨県 (野村 2010) などから記録がある。

筆者の手もとに, 栃木県産ならびに初記録になると思われる東京都産の標本があるので記録しておく。

1 ex., 栃木県塩谷郡栗山村西川, 12. VI. 2006; 1 ex., 東京都西多摩郡奥多摩町日原一石山~人形山, 20. V. 2007, 筆者採集。



奥多摩で得られた個体は, 写真に示したように, 上翅小楯板付近の黒色紋が広がり, 上翅端の黒色紋と融合している。

2 個体とも倒木の裏側に生えた貧弱な釣鐘型のキノコの周辺から採集した。

末筆ながら, 文献記録の問い合わせに快く応じてくださった今坂正一氏 (久留米市) に深謝したい。